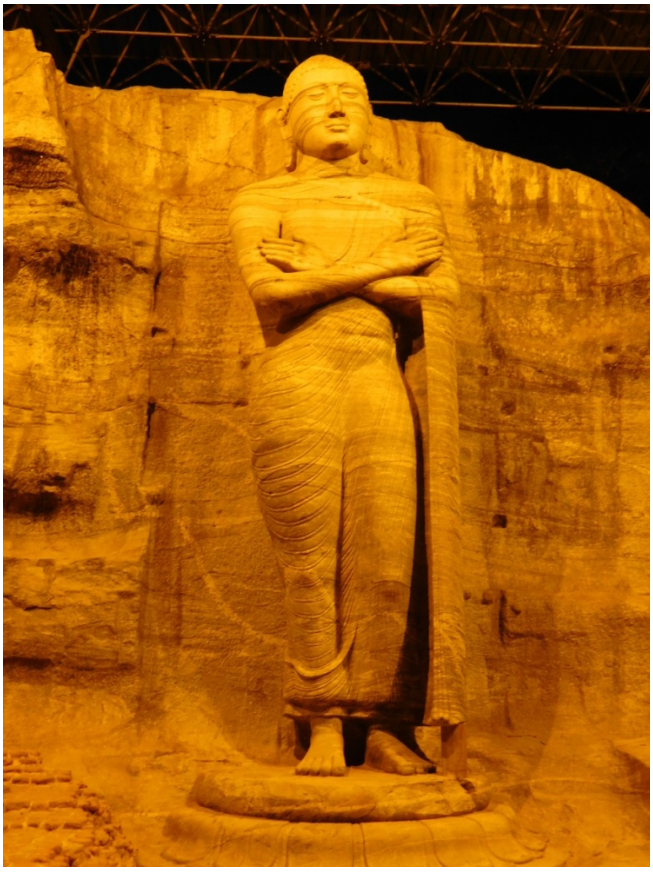
水源禅師法話集 93

（2018 年 5 月 12 日　大阪合宿 2 日目）

2019 年 2 月 22 日

一乗禅の会



スリランカにて

目次

水源禅師法話

ジャータカ物語　菩薩だったお釈迦様と五人の代官の話 3
菩薩を殺そうと策略を練る悪代官達 4
騙される王様、親殺しを思い止まった王子 5
猿の毛皮を用いて五つの理論を論破した菩薩 6
動物であろうと良き友に出会うという事は非常に大切なこと 9
嘘まみれのマスメディア 9
絶対にロシアとケンカしてはいけませんよ 10
民衆を救う事が仏教の根本にある 10
数字に隠された秘密、お釈迦さまの教えは四つの手法 11
良き友となり、一緒に座ると言う事は宇宙の宝 11

質疑応答

釈尊のその前のお姿である「常不軽菩薩」 13
負けても良い・プライドは毒、アクサラ（不善心）になる 14
全て両親の恩愛の中でここまで来れた 14
自分を守る為、人を守る為の抵抗は問題なし 16
お釈迦様は最後の半分「法華経」だけを説かれた 17
因縁によって仇討が５００回も続いた 18
生まれた曜日が大切 18
ジェラシーやプライドも無く一緒に座る事は最高の宝 19

水源禅師法話

ジャータカ物語　菩薩だったお釈迦様と五人の代官の話

もう早いもので、明日で終わりですね。遠いところから時間かけて、四国、東京、其々時間さかれて。やっぱり人生で一番大切なのは、良き人に出会うと言う事ですね、良き人に。

それは人と言えば人間だけと思われるでしょうけれども、人間だけでもないのですね。動物であれば、ワンコちゃんとか、ネコちゃんとか、小鳥とか、中には魚であってもね。

私の家では二匹と言わないのですね、二人って、二人の犬、二人って、どうしても人間の表現でしてしまうわけですね。

今日のお昼も菩薩の犬がありますよって、無得菩薩と呼ばれるその菩薩は、中国の九華山の真身地蔵菩薩のお寺と言う所で、非常に有名なお犬さんです。また弘法大師様もよく白い犬を連れて歩いたと。つまり心なのですね、心。

それである時お釈迦様が菩薩のとき、ヒマラヤの近くの大富豪に生まれてね、生まれた場所はカーシーと言う昔の名前で、今でもインドにあるその名前だと思います、カーシーと。大金持ちの息子に生まれて、何不自由なく暮らしていたわけですね。でもある時ゴータマ菩薩は、托鉢の行に出て、木を食べたり、野生の果物を食べたり、そして托鉢で周って、聖となって、暮らす生活をしていたわけですね。

ゴータマ菩薩様は、偉大な菩提（Great Bodhi）の聖とよばれ、バラナーシ Varanasi の都に辿り着いて、やっぱりバラナーシと言うのは昔より精神的な都だったのですね。それで都のバラナーシに着いて、その時の王様の名前はブラマダッタ、何回も代が変わっても同じ名前で。西洋では、次から次と同じ名前、ただ何代目、何代目って、日本でも歌舞伎役者が代次いで、7代目何とか、4代目とか名前は一緒で、まあそんな感じだと思うのだけれど。

それでその時に、出来の悪い王様は、ゴーダマ菩薩の聖がずーっと托鉢して歩いてその宮殿の近くに来るのを、窓から見ていたのですね。とても精練で、素晴らしい静寂なそういう風な方なので、そういう風に見えたので、お城の中に招いて、毎日毎日素晴らしい食事をダーナしていました。その都には、五人の悪い代官がいて、王様は全く知らずに五人の悪代官に国を治めることを任せて。この五人は結託して賄賂を取っていました。裁判する時、良いとか悪いとかを全く無視して、賄賂を沢山悪代官に出した、た人に有利な判決、例えば家とか、土地とかを取り上げて、それで無法な裁判をするわけですね。それでこの五人の其々の悪代官は、其々の教えを代表するその最高の知識を持っている大先生達であったわけです。　日本でも　どこどこの大学の教授とか、そういう人は知識があるから良いだろうと。そういう事で、そういう国を治めるの

に最高の其々の学問に達した人達を集めて、カウンセラーという顧問、参謀とかね。アメリカでは、上級補佐官とかそういう感じなのだけれども。

菩薩を殺そうと策略を練る悪代官達

その五人の悪代官の一人はその最高の顧問は、その因縁と言うものは無いと考える学術派で、今の世でも大手を振って大いに宣伝してますね。

二番目は、次の最高の顧問は、この世は全て神のようなものによって、全てが動いていると考える学術派。

三番目は、一切の事は前にやったその行動によって決定されると考える学術派。

四番目は、死んだ後は全てなくなるから、一切それでお終いと言う考えの学術派。

五番目は、クシャトリヤと言う武士階級が全て決定して、それで国を治めると。それで武士階級は特に、親を殺しても国を守るために良しとか、それから王様が子供を殺しても、国を守るために良しとか、そう考える学術派（軍国主義、今でも世界に蔓延してますね）。

それである時、ゴータマ菩薩がいつものように乞食を受ける為に、宮殿の王様の所に行って托鉢する時に、バラナーシの土地を取り上げられる不幸な目に合った人が、五人の悪代官達の無茶な決定によって、罪も何も無いのに取り上げて、それを沢山お金を悪代官立達に出した人に譲られると云う、悪行ですね。まあ今でもアメリカでは、二つの政党が、実は二つの首で体は一つと、何をやっても一つの考えで動いていくと。と言う事で民衆は苦しんでいるけれども。まあそんな感じで。

それでその時、聖のゴータマ菩薩様が、じゃあ、あんまり可哀そうだから、そういう民衆の前で、裁判の決定の時に、素晴らしい事をお話しをして、「やっぱり土地とか所有物は、この可哀そうな男の人から取り上げるべきではない」と。それで皆も拍手喝采して大きく騒いで「そうだ、そうだ」と言う事で、その不正は防げたわけですね。

それで王様が「何でそんなに人々が、騒いで大きな声を上げて喜んでいるのか」と、「実はこういう托鉢をしている修道者が、こういう事を言って助けた」と。「おおそれは素晴らしい」と。12年間こうしてこういう風に接待していた王様は気分を良くして、それで聖に「どうかこれから私を助けて、裁判の全てを決定する、そういう事をして下さいませんか？」と。「いやー、私は托鉢する修行僧だからそういう事はしたくないです」と。でも何とかお願いして、「じゃあ何かこの国に良き事をして下さい」というお願いを受け入れて、最高の裁判官になって物事を進めて行ったわけですね。

そうしたら全て解決してみんな上手く行くから、この五人の悪代官は賄賂を貰えないので、お金が無くなったわけです。それでじゃあどうしようかと。それで王様に告げ口して、「いやあーこの人はあなたの敵だ」と。「今追い出さなければ大変な事になるから、追い出した方がいい」と。

それで王様はこの五人の其々の学派の最高の知識を持った悪代官達の意見を受

け入れて、「じゃあそうしよう」と言って、宮殿に来た時には、その第一回目は変な物を混ぜて、第二回目はそれでも取って帰る、高―い所に置いた、それでも持って帰ると。そういう嫌がらせをして、最後には托鉢に入れる食料と砂を混ぜてあげたと。それでもそこに居ると。どうしても行かないと。「じゃあこれは王様、この人は多分あなたの王国を取るつもりじゃないですか？」と。そういう話になって「そんな恐ろしい男か」と。それで5人の悪代官が「いやこの男は私たちの手で殺しましょう」と。次の日に「じゃあそうしなさい」と。

ところがこういう聖を殺すという事は、心に負担を感じて夜寝られないわけですね。汗が出たり、寝返りして。それで隣に寝ている妃様が、「どうしたのですか、王様、何かあるのですか？」「いやあ何ともない」と。「でもどうしてそんなに苦しむのですか？」と言ったら、「いや実は、接待しているこの修道の聖が、実はこの王国を取ろうとしているという事で、明日の朝殺そうとそう思っている」と。それで「ああそうですか、多分そうかもしれませんね。王様あなたは悪くないのですから、すっかり寝て下さい」と。そして安心して寝ていたわけです。それで次の日五人の代官は、刀を持って殺害しようとしたけれども、ある犬が、ワンワンワンワンワンと吠えて入らせないわけです。

それで聖がすぐにその事が分かって、あ、これは私の命に危険があると。それで森に帰って行ったわけです。じゃなければ殺されて引き裂かれて糞溜めに放られるところだったわけでね。それでこのまま、この王国から立ち去ろうと思ったわけです。

騙される王様、親殺しを思い止まった王子

でも「いや、これじゃあ、立ち去ったら、身の潔白が証明できない」という事で、またこうして托鉢をあっちこっちにしていたら、この五人の代官が、「いやーこれは困った」と。「この人が居る限り私たちにお金も入らないし、今まで通り、面白くない」と。

次には、「この聖は、あなたの王国を取ろうとして転覆させようとしていると思う」と。その証拠に彼の後に沢山の民衆がついて周るから見て下さい」と。それで王様は「そうなのか」と。聖がこう歩いて托鉢しているのを見たら、確かにその後沢山の民衆が付いて歩くわけです。でも聖は、全然知らないから、いつもの通りやって帰って行ったのです。

それで王様がじゃあやっぱりそうなのかと、この聖を殺そうという案を立てて、捕まえに行こうとしたのです。だけど聖はすぐに森に帰って、自分の荷物をまとめて立ち去って行ったわけですね。そうしたら、あら、民衆もいないし、攻めてこない。これはどうした事か？と。やっぱりこの方は清廉潔白で何もないと。 それでまた、前の様にもてなして、そういう噂は間違いだという事で、この五人の悪代官は困ってしまったわけです。

そういうどこの国でも誰もが、最高の知識を持って、最高の権力を回している人たちは、尊敬されてそっちの方を信じるでしょう？ ところが全部嘘だとあばれたら困るから、

今度は悪い噂流して「実はあなたの妃がこの聖と仲良くして、あなたを殺そうという計画を立てている」と。「そんな事があるのか」と。純粋で王様に仕え、夜苦しむ時は慰めて、そういう妃に今度は罪を着せたのです（アメリカでも実にこれと似た事が起こりましたね）。「いやあ、そういう悪い事をしている妃なのか、その聖者と仲良くなって」それで「すぐに殺せ」と言って、五人の代官が殺したわけです。ところがこの妃にはちゃんとした王子様がいるから、自分のお母さんが殺されたと、無実の罪で。そんな事は絶対無いのにと、王子様はこの王様を殺そうとそうしたわけです。

まあいつでも子が王位を取るために王様を殺すとか、そういう事がインドではあるわけなのですね、何か習慣的に。それで王様もまた子供を殺すとか、ちょっと間違った事を王様に盾突いたと。

まあ日本でも切腹させるとか、幽閉するとかいう話がある様に、いつも陰謀の中で生きているから。上に立てば立つほどそういう強烈な社会なのですね。物も無いほうが、安心だけれど。

それで、王子様たちが一軍を上げて攻め入ろうとしたけれども、王様はやっぱり怖くなって、「自分が何か間違いをした」と。そうしたら聖が王子様に「いや絶対に親を殺してはいけません」と。「そういう事をしたら因果で悪い事があるから止めなさい」と。それでそれを止めたわけですね。それでも、この悪い五人の代官たちは納得いかないから「いやどうしても聖を捕まえて殺さなければいけない」と考えていたのです。

猿の毛皮を用いて五つの理論を論破した菩薩

其の時、ヒマラヤの山奥に住んでいた聖は、ある時村に行ったら、猿が殺されたわけです。その殺された猿を見て、「肉を食べたら、その皮を私に下さい」と。

それで聖は、皮を家に掛けて干して臭みが無くなった時に、それを引っ掛けて都に行って、こう歌を唄うわけです。「私はこの猿の毛皮でとても助かっている」と。「硬い石の上に座る時はこれを敷いて、そして腹が減ったらその乾いた肉を食べる」と。そういう風に唄いながら。

「何と非道な修行者だろう」と、そういう風に今度は噂が出て。これはインドではそういう聖たちが肉を食べるという事は、最低の事なわけですね、大昔からそうなのです。それで食べてはいないけれども、そういう歌を唄って。五人の悪代官がそれで聖をとっ捕まえて、「お前は肉を食べてもう非道でもう不道徳で、こういう生き方をするのは、やっぱりお前は死に値する」と。

それで聖が、「それがどうして悪いのですか？」という事を論破し始めるわけです。「あなた（一番の代官）には、因縁というものが無いとそう言いましたね？因縁が無ければ、どうしてサルの肉を食べてはダメなのですか？」と。「何の因果関係もないし、それが動物で、ちょうどマンゴーが木から落ちてそれを食べるみたいなものじゃないですか？」と。

それで回答に詰まったわけですね。因縁があればその因果関係で殺したという事で、そういう不道徳だという理論がなるけれども。この最初の第一番目は因縁が存在しないと考える最高の学識を持っている悪代官を論破したのです。
悪代官：「この猿の肉を食べて、こうして歩いているお前は命を取って殺した」と。聖：「でもそれはちょうどマンゴーが木に熟して生って、それをぽっと取るのは、それは罪なのですか？」と。「それは因縁なのですか？」と。それでこの猿も「ちょうど実を熟して、ちょうど私はマンゴーを食べたようなものだから、それで何の罪がありますか？」と。「あなたは因縁が存在はしなという事でしょう？」悪代官がその回答に詰まって、そしてその第一の理論が敗れたわけですね。

それで二番目は、神が全て決定すると言う最高の学識ですね。「神がこの世を作って全て何でも神の力によって、この世は動いている」と。「それだったら、神が果物を作ってそれを食べるみたいに、そのマンゴーを突き刺して落として、それも神が決定するのだから、私がこの猿の肉を食べて殺したとしても、それは神が決定する事だから、私の罪はどこにありますか？」と。それで第二の理論が崩されたわけですね。

まあ現在でも同じじゃないですか？カルマ、因縁無い、好きなように何してもいいと言う、そう言う事を教える宗教もあるし、何をしても天国に行くと。そう言う教えもあるし。第二はこう言う風に、「全て神様が作って全てやるから、じゃあ神様が決定して神様が決めるのだから、全ては神様に委ねなければいけないじゃないですか？」と。こそには、罪は一つもないと。その通りと言う事で第二の理論が崩されたわけね。

第三はね、この前に行ったアクションによって、行動によって次の結果が出ると。「それでお前は、猿を殺して肉を食べたというアクションがある」と、という理論でお前には罪が有ると。「でもそう言いますけれども、私がたとえ猿を殺して食べたとしても、それは猿が私に食いかかって来て私を殺そうとした」と。「それで私が殺してその肉を食べた」と。「じゃあその理由で私に罪がありますか？」と。

という事で第三の理論も、カルマではないけれど、そのアクションによって次の罪が決定されるという事なわけですね。こう裁判するから。つまり「猿が私に打ちかかってそれを殺してその肉を食べて、それの皮を使って歩いている」と。実際は違うのだけれど。その村に行ってまあそういう歌を唄って、論争を起こしたいから、こうしてお釈迦様が菩薩になって、それでそれだったら第三の理論も可笑しいなとなるわけです。

今実際に現在でもこんなこと言っています。全く変わらずによく見て下さい。前に六派という哲学の学校があって、インドにお釈迦様がいた時代に、また同じような事をやっているわけですよ。

第四番目は、全て死によって解決される、一切その後は何も無いという理論なわけですね。もしそうだったら、「死によって一切が消えるのだったら、このお猿さんは殺された事によって、一切の物事は、因果関係も何も無いし、それでお終いなのではないですか？」と。「それによって私の罪はどこにありますか？」と。それでその考えも、打ち

破られたわけですね。

最後の五番目はクシャトリヤ武士階級が国を守るためなら父母を殺しても良いと。また王も国を守るためには、自分の娘、息子を殺しても当然の事だと。そういう風な理論なわけですね。それだったら「このお猿さんを私が殺したとして肉を食べたと。それは私を守って食べるという、自分を守るという事だから、国を守るのと一緒じゃないですか？」と。という理論でそしてこれを全部打ち破ってしまって、それで民衆に平和が来たわけです。 そう言う遠ーい遠―い昔の劫でも、こういう超学識の大先生が権力に乗っかって国を治めて、そして裁判で、共に組んで賄賂を貰って、それで民衆がもう苦しんでいるわけです。（私たちは久遠の時空の中で、同じ事の繰り返しです。）

ただ一つ残ったのは因果（因縁応果）というものがあるという事ですが、その当時でもそういう十二因縁と言う、因縁というものを知らなかったわけですね。その聖（ゴータマ菩薩様）曰く、全て死によって，フォーエレメント four element（四界分別）も全部分解して、その後無いというのでしょう？と。そうしたら死によって全て消えると。全てが崩壊するから、その後きれいさっぱりになって何も無いはずだと。だから私には罪が無いと論破したのです。まあこれも一部なのだけれどね。

水源禅師とお乳を飲んでいる子ゾウと親達

動物であろうと良き友に出会うという事は非常に大切なこと

それで本当は殺されようとした時に、犬がワンワン吠えたでしょう？そのワンワンと吠えたのがアナンダと言う最後までお釈迦様に付き添った方なわけですね。だからさっき言ったように、つまり人間であろうが、動物であろうが、良き友に出会うと言う事は、人生において非常に大切なのですね。

だから皆さんがこうして仲良く集い合って、こうして修業するという事は、これは宇宙の最高の宝物なのですよ。だから皆さんもこういう事を心から研鑽して「そうだなあ」と思われるように修業されたら良いと思いますよ。

この世でたった一人の友達でも作ろうというのは、ほとんど不可能。デマばかりで、こういう過去でも、皆罪のない人を陥れる為に風評を一杯して、こういう聖でも殺そうとするわけですね。現在でも悪いものは良いと言う風評を鳴らして、良いと言うし、良いものを悪い、 悪い、悪いと言って風評を出してその人を卑しめるというマスメディアがありますね。

嘘まみれのマスメディア

Mass media マスメディア、アメリカね、大統領選でもロシアゲートと言って、トランプ大統領が賄賂貰ってロシアが選挙に勝たせようとしたと。それで一年以上経っても、ちり一つの材料も見つからないわけですよ。それで今度は特別、Special investigation というモーラー、Mr.モーラーが前のジョージブッシュ、それからオバマとか続いて、その CIA の関係のドンなわけですね。関係のドンが乗り込んで、もう凄い検察官とか一杯使って全てをチェックして行っているのだけれど、相手方のヒラリークリントンの方は、もう秘密情報を個人てきな事で使用していても、手を付けないわけです。

それである海兵隊が潜水艦の写真を一枚撮ったわけ、家族の為に。自分がどんな所に寝ているか？と。その家族に見せる写真を撮ったという事で確か5年か10年の刑務所に入る裁判になって、たった一つの事だけで彼は刑務所に入っている。ヒラリークリントンさんは、3万の項目のデーターを全部消したという事も公表になっているわけ。秘密、秘密。それも家に持って帰っただけでも大変な罪になるのに、家に持って帰ってそれも消したと全部分かってもまだ大丈夫なわけ。よく似ていますね。だから変わらないわけですよ。まあ日本でもあるのだろうけれどもね。その内訳は、詳しく私は分からないけれども、久遠の彼方の昔と今もよく似てますね。

それで仕方がなくて、ストーミーダニエルズというポルノ女優がいるわけです、今から10何年前にトランプ大統領と夜を共にしたと。それでちょうど選挙に出る時に、彼の顧

問弁護士がお金を払って口を封じた、という事でそれを出してきたのだけれど、一般民衆はまあ遠い昔それを出して、もう民衆はその手には乗らないわけ。メディアは、大きく騒ぐわけです。

まあ日本でやったら大変だね。もうおしまい。ところがアメリカはもうそれも聞き慣れて、もう嘘嘘嘘ばっかりだから、もう民衆もその手に乗らないしそのままなわけ。それにシリアを爆撃した時、ホワイトヘルメットとこのホワイトヘルメットは、イギリスの方でお金を出して偽装工作してシリア政府がやった、シリア政府がやったと罪のないのを国をボンボンボンボンやるでしょう？それで破壊して。本当に菩薩様の話しと、よく似てますね。

「絶対にロシアとケンカしてはいけませんよ」

それでつい最近ロシアスパイが、イギリスに来てそれを毒殺させようとしたと。そういうケミカルの恐ろしい毒でやったと。ところがその証拠は未だに出せないわけです。未だに出せないわけ。で静かになった。でもその時にすぐに26人のロシアの外交官を追放、ロシアも仕返し追放、アメリカは60人のロシア外交官追放、それでもうゴタゴタになってEU も追放. ただ良かったのは、日本は賢いのかロシア外交官を追放しなかった。これをやったらもう日本の生きる道は完全に閉ざされたと思うよ。

やっぱりプーチンさんは頭が良いから、無茶な事はしない。それを日本は、まるまるEU とかアメリカと同じ行動したら、今目もあてられないよ、本当に。だからそこは抑えていて、という事は私が前の法話集で言っているのですね。「絶対にロシアと喧嘩してはいけませんよ」と。「ここだけが頼りだ」と。まあ、誰かが聞いてくれたのか？聞いてくれて、まあ当たって。そういう行動かもしれないし、私が予言したように行動しているからまあ良かったなと。

民衆を救う事が仏教の根本にある

やっぱり一般の皆さんが苦しむからです。政治家がいくら悪くても、一般の皆さんが救われればそれで良いわけですよ。わかりますか。そこが仏教のやっぱり根本で、悪代官がこんな事をしているでしょう？それで民衆が苦しむわけですよ。本当は、ゴータマ菩薩は政治も一切関係なくただ修業したいけれど、民衆が非常に苦しむから、じゃ仕方なしに全部解決していけば、聖だからお金かからないでしょう？ただ托鉢で OK。

ところがその悪代官たちは、その賄賂でどんどん肥やしていくものだから、お金が入らなければ、彼らの豪邸も、召使いも雇えないし、それで困ってしまってこういう悪巧みをするわけですね。何故かと言えば、因果関係は無い、死んだらおしまいとか、クシャトリヤ武士階級は何をしても良いという理論ですね。まあ五つさっき言った様に。こういう考えで因果関係がないから、今は因果なんてあるか、前世なんてあるものかと。仏

教を信じている人でも疑ってしまう。昔は疑わなかった。

でもあんまり、キリスト教の理論とかそういうので、死ねば天国か地獄、まだそれは良いですね。悪い事をすれ地獄に落ちると、良い事をすれば天国に行くと。ま、死ねば何も無いと、そこまで言ってしまえば、何してもいいしね、と言って全部消えますと、死んでおしまいと。因果関係がないので何してもよいと？おかしいですね。

数字に隠された秘密、お釈迦さまの教えは四つの手法

まあそういう現代に凄く当てはまりませんか？それで面白い事に、これが五人の悪人なのですよね。五と言うのはペンタ（Penta）、ペンタと言えばアメリカのペンタゴン。面白いでしょう？だから数字には意味があるわけですね。それでやっている事がまさに今のペンタゴンの 5 人の悪人が居るわけですね、そういう風に。

7と言うのはやっぱり神の数字で、月、火、水、木、金、土、日と七つ星になるわけですね。やっぱりこれはちょっと違う、7の意味は。だからハ二カと言ってユダヤ教では、七つの炎を燃やすわけですね、七つ。

結局七つの炎といえば過去七仏にも当てはまるわけね。過ぎ去った劫、今は賢劫、賢い劫で未来劫とか、過去千仏、現在千仏、未来千仏、で三千仏という、その今切り替わりでね、それで真ん中がカクサンダーブッダ（拘楼孫仏）になって、西に存在して結局阿弥陀仏になってしまうわけで賢劫仏の一番目です。でお釈迦様が四番目です。

それでお釈迦様の全ての教えは四つの手法で教えているわけです。四界分別の地、水、風、火で四つ。瞑想の涅槃に行くのもやっぱり四つですね。カヤヌパッサナー、ヴェダナヌパッサナー、チッタヌパッサナー、ダンマヌパッサナーと。それぞれ意味があるわけですね。四は死に悪い意味に捉えるけれど、お釈迦様は四つの法門いつも。それで面白い事にピラミッドも四面。四つになってなすね。

良き友となって、一緒に座るという事は宇宙の宝

まあそういう風に一番大事な事は、犬でも悪い人の企みを聞いて、聖という事が分かるから、それを救う為に吠えて命を守るわけですね。

まあそういう風に犬と言っても、それは良き友であるわけですね。だから今回仏になられたお釈迦様を、いつまでも最後まで付き添った方はアナンダ尊者様で、カシャパ（加葉）尊者様が NO.2でお釈迦様の後継いだわけですね、そして阿難陀様がパトリアッチ（教祖の座より）について NO.3。

まあそういう事でこうして私たちが集って良き友となって、こうして一緒に座るという事は、宇宙の宝に値するわけですね。だからこういう因縁を大切にされますようにというの

が私の願いなのです。

　ま、そう言う短い法話になりましたけれど、これでどうでしょうか。

鹿の群れ

質疑応答

釈尊のその前のお姿である「常不軽菩薩」

【参加者】

貰った資料で、読み方が分からないのですが、常不軽菩薩とは？

【水源師】

それはね、常不軽菩薩、じょうふけいぼさつと言う法華経の中のお話。

このお経でしょう？常不軽菩薩というのは、昔遠ーい遠ーい久遠の彼方に、お釈迦様がそういう菩薩になって、犬でも何でも絶対に軽蔑しないで、拝んだと。そういう凄い菩薩様が、いつも法華経を口にしてその時から、こう書かれていますね。前世、昔、威音王如来と言う同じ名前をもつ2万億の仏が次々と出られたと。その威音王仏が入滅した後に像法の世で、増上饅の比丘など四衆（僧俗男女）、つまり比丘、比丘尼、一般の衆生の男女が多い中にこの常不軽菩薩が出られて、出家、在家を問わず「君たちを我は、深くあなたたちを尊敬します」と。あえてつまり驕慢せず、慢心を起こさず、所似（ゆえん）は何（いか）ん、皆様が菩薩の道を行して、当（まさ）に仏にする事を得べしと」と礼拝したのですけれど、そう言う事を聞いた比丘、比丘尼、世俗の男女が、石を投げたり悪口を言って、叩いたりそう言う暴行をしたと。それでも迫害されても、そう言う事を守ってただただ其の、行をしたと。

その時に説いた常不軽菩薩がお話したのは、法華経2千万億の偶を聞いて、それをお話ししたという事で、六根清浄を得て、2万億那由他と言う永い寿命を得て、広く人のために法華経をお話したと。これを聞いたそういう慢心を起こした四衆たちは、その所説を聞き、みんな信じ伏し随従したと。常不軽菩薩は臨終の時に、同名である2千億の日月燈明如来という仏に値したと。また同名である2千億の雲自在燈王如来という仏にも値すると。という風に法華経を説き続けたと。諸々の善根を沢山植えて、まさに千万億の仏に遇い法華経を説いて功徳を成就して、最終的に常不軽菩薩も仏となることが出来たと。

常不軽菩薩は自身が迫害され誹謗されても、他人を迫害するどころか、仏法に対する怨敵などを誹謗し返さなかったと。この精神、言動は宗派を問わず教理を超えて、仏教徒としての原理的な行動、言動の規範としてよく引用されると。

常不軽菩薩は、釈尊のその前の姿であると言う事を説かれてあるわけですね。何か分かりました？そう言う事ですか？聞かれたのは。

負けても良い・プライドは毒、アクサラ（不善心）になる

【参加者】

はい、そのプライドというか、皆あるのですけれども、それを凄く刺激されると自分でもワーっと傷つけられたとなってしまうのです、あっと言う間に。そこの所を。

【水源師】

そうそう、だからプライドはね、毒なのですよ。逆にプライドを持てと言うでしょう？実はこのプライドが毒なのですよ。プライドも何もいらないと。私は馬鹿にされても良いと。だからそれを実行された方が、宮沢賢治さんで、私は一生懸命人に尽くして、その後私はでくの坊と呼ばれたいと。 私にはプライドは無いと。

それなのに日本ではプライドを持て、プライドを持てとか、勝て！負けたのか、お前はプライドが無いのかと、闘争心をあおる分けです。やっぱり闘争心だと喧嘩になるからね。だからインドはオリンピックうまくいかないのですよ。負けてもまあ、まあ一生懸命やったと。それで良いわけです。でもやっぱり皆闘争心で動いているからオリンピックは、勝て、勝て、勝てと。

あれもやっぱりね、西洋の手法で、日本だって勝つ負け関係ないのに実際は。それがもう一番にならなければいけない。何でも勝たなければいけないとか、勝つまでは負けませんとか言って、プライドと言うか、このプライドは、実は本当に毒、毒、毒。

だから私が言う三十四善心の中にプライドがあれば、クサラ（kusala:善）にならない、アクサラ（akusala:不善）になります。心がプライドが慢増するからです。それによって行動して、それによってマラソンで一番になるとか、それによってオリンピックでゴールドメダルを取ろうとか。

でも人間はそういう風に出来ていないから、最後の詰めで負けるのですよ。そこまで鬼になれないから。そうしたら今度はもうメディアで負けた、転んだゴールド取れないと。大騒ぎするでしょう？スキーでも何でも。やっとそれを乗り越えて、今度はゴールドメダル取れば、民衆は驚喜しますね、民衆はさも自分が優勝したかの錯覚を起こします。だからその手に乗らない事。負けても良いわけよ、ただ自分が好きでそれに参加して、ビリで良いわけですよ。

全て両親の恩愛の中でここまで来れた

だから私は小さい頃から、まあ小学校ビリだと。どうせビリだから、プライドないからね、大丈夫。だから悠然と楽々と生きていけるわけですね。ただその時に家のお母さんが、

兄弟から馬鹿にされていてね。いやあ可哀そうに！それで勉強して、まあ家の家族誰でも勉強できること以上の事をサーと見せたから、家族は自分たちが私を育て上げたような事を云い始めましたね。まあそんなもんですよ。

つまり心ですね、ハート。可哀そうに、家のお母さんが虐められてと。それも私の為に。それでじゃあ勉強をとしました。だからそういう風に子供でも、家のお母さんが可愛がる所を見せたら、やきもちで今度は母親を虐めるわけですね。で、母親はじっと耐えているわけです。良いのじゃないないか、まあ元気だから良いとかそんなこと言って、一生懸命かばうのがまたいやなわけでしょう？それでこれは良くないなーと思って、それでまた勉強を私なりにして。

いやあ私のお父さんは、医者になれ、医者になれと、いやあ私、医者になって人を殺したらどうしようと、まあ車のエンジンだったらね、何回分解しても生き返るから。それが良いじゃないか？と。じゃあせめて、歯科医になってくれと、歯医者になってくれと、歯科医皆そんなになっているし、したくないみたいに思っているから、そんな事より外国に出て、自由に暮らしたいと。人の歯をいじって、こうして一生は暮らしたくないと。

だから後でもやっぱり、親不孝したのかなー？願い聞いてあげれば親を温存させてゆっくりさせてあげられたのかなー？と。でも今のこの日本の社会を見たら、もう社会自体がおかしくなっているから、一番恐れたのは、お父さんの反対があれば出られないからね、絶対に。やっぱり恩返ししなければいけないし、でも家のお母さんからも許可貰って、お父さんも渋々、渋々出したくれたけれど、そうでなければ私は日本に居るしかなかったですね。

何故かと言えば、私が医学部に入って、皆さんのお金で医学部を出た場合には、やっぱり恩義があるから出られないでしょう？だって国のお金を使って、国立大学そんな所に行けば、そうでしょう？それがプライドなわけですよ。そこにいたら国立に行って出なければ、こうとかね、そういう昔はそんな頭だよ。変な頭で。それで、もし、そう言ってそうして行けば、とんでもなく日本の国で一生奉仕しなくてはいけないという恩義があるからね。人様の税金で生きているから。とてもじゃないけれど外国に出ていくことは出来無いし、そして大学も夜間に行って働いて、家の両親にお金に迷惑かけないで、そういう事で負担を感じない様に。それでもやっぱり出る時は、あれだね、やっぱり恩というものがあるものだから、父親に反対されたら出ていく事は出来ないですよ。

まあそういう事で、今見たら全て両親の恩愛の中でここまで来たのだなーと。それによって、偉大な導師たちに出会って、それでこういう風な恵まれた、最も恵まれた人生でね、法に触れることが出来たと。という事が、この頃よく分かりますね。後は何もいらない。まあジャングルで生きてもそれで幸せですね。

という事がやっぱりお釈迦様とか、そう言うジャータカ物語見れば、本当にその通りなのですよ。本当に久遠の時空を経て、本当に正法を教えてくれると。四界分別、ナーマルーパからその十二因縁をザーっと観せる法がどこにありますか、実際に観える

わけですね。

やあこれは凄い事。まあそう言う事を聞いた事もないしね。ただ若い時にダライラマ法王が、「君たちは若いから四界分別をしっかり勉強してくれ。こういう豊かなカナダに居て、人生を無駄にしないように」という事だけはこびりついて、それが旅をしている間に、パオがこういう法を持っているという事を、カンボジアのお医者さんから言われて、そういう文献見せられて、そういう所がこの世にあるものかと、それでそこのお寺では、お釈迦様の生きていた時代その通りやっているから、ぜひ見分してくれと。

それでこういう因縁で、こういう法随観がこれほど凄いのだという事が最初に分かれば絶対に行かない。分からないからね、やっぱり小学校ビリの頭だから、「ああじゃあ行ってみようか」と言って、もし最初からアビダンマとか勉強したら、私には関係ないとても難しい事としないで、旅続けて帰って美味しい団子食べると。やってみたらもうこれは不可能と、絶対に他人に教えられないと思いました。本当にこれは不可能と。でも皆さんがここまでずーっとよく精進されて、ここまで来たという事は、まあ私にとっては、最高のご褒美ですね。皆さんから頂いた。それでやっぱり良き心、良き人、犬でさえこうしてこうアナンダ様になって、こうお釈迦様とこう繋がりがあるのだから。その当時は犬であっても、最後はもうアーナンダという生命体になって人間の形をしてアラハト（阿羅漢）になると。

だから良き友に出会うというのは、やっぱり親子でも殺すからね、殺し合いするし。それでお釈迦様は、それは絶対にしてはいけないと、何回もこのことをしたわけですよ。

自分を守る為、人を守る為の抵抗は問題なし

【参加者】

さっきの話の続きと言うか、もっとあれなのですけれど、プライドと言うよりも、最近それを気が付いたことがあって、プライドを捨てたくないとか、勝ちたいとかと言うのはでなくて、潰されてしまっては困ると言う最後の抵抗みたいなことを感じたのです。それと言うのは。

【水源師】

それはプライドではなく、こう自分の生きる道を求めて、それを投げ捨てないと言う事で、それは素晴らしい事であって、最後まで戦い抜くと。その負けても、その勝つと言うあれではなく、自分を守るため、人を守るためと言う事で、それは全然問題ない事で、素晴らしい行動だと思います。

【参加者】

ああ、そうなのですか。

ありがとうございます。

お釈迦様は最後の半分「法華経」だけを説かれた

【参加者】

単純なちょっと疑問なのですけれど、法華経でですね、法華経自体、触りをちょっと読んだりしているのですが、お釈迦様が霊鷲山で説いた話になっているのですが、これは本当に、この時代存命の時にされたのですか、法華経の内容は。

【水源師】

私の先生曰く、最後の半分は法華経ばかり説かれて死んで行ったと。ただその法華経を掲げて、その喧伝するそういう人たちは、疑問であるとは言っている。それで法華経自体は、この事をお釈迦様が、説き歩いたと。あまりにも素晴らしいから、天才が作った話ではないかと、偽経ではないかという学説が一杯出ています。

でもやっぱり私の先生は、禅師だからずーっと瞑想するわけですよ。それで文献とか調べて、それで確信に至ったのは、お釈迦様の最後の半分は、この法華経だけを説いて行かれたと。それで、法華経を読むにはやっぱり、十二因縁を分からなければ読めないと。法随観。それを外して話す事において、問題が発生するわけですね。そのお経の最初に書かれてありますから。その中身だけ取っていけばどこへでも吹っ飛んでしまうからね。

まあそう言う事で、もしそう言う事で勝手に、法を分からずして説き明かす事は、止めなさいと。それは、完全に仏を殺す事になるから、それは恐ろしい所に行きますね。人の呼び込みの為に作るアレではダメなわけですね。

法華経もお釈迦様あっての事の法華経であって、お釈迦様を拝まずにして、もしそれを説くとしたら、これはもう全宇宙とか、無量永劫において、どういう風な因果関係を作っているかという事を全く理解していないのではないですかね。

だから全ての経典があれば、これはダメ、あれはダメと無下に言うのも、良くないと思います。

私が一番びっくりしたのは、法華経というのを渡されて、いやーあ法華経はあれでとか思ったけれど、読めばワー凄い事書かれているなあと思って、そうだったのです。

それでその後に般若心経読んだら、またこれは凄いと、ますます端的に書いて。

まあそういう旅で、やっぱり凄いと思う心は、過去にそういう出会いがあったからかもしれないし、そうでなければ頭痛いこんな真っ向臭い事は、辞めろという感じだったかもしれませんね。

因縁によって仇討が５００回も続いた

【参加者】

こうして先生からお話しを聞いたり、皆さんにこう会っているわけですけれど、これは何か最低でも 500 回は何かあるとか、ないとか、

【水源師】

そうですね。袖振り合うも500生の何とか、因縁で。 だからこういう良い因縁で出会っているから、過去にも沢山、出会っていると思います。

それで前にお話ししたように、ある純粋な女の子が、鶏の卵を食べるわけですね、それを旅人が来て、その食べるのを見て、美味しそうに食べるから彼女も食べたわけですよ。これは美味しい、美味しいと。ところが鶏さんは、もう怒り狂って、絶対に今度は人間に生まれて、仇討しようと。そして500回続いたって、その闘争が。

という事をお釈迦様が、お話しされています。だから鳥としては、卵を産んで雛を育てたいのに、見る度に取られて食べられると。

ところがまた、星六さんの鶏がいてね。何か卵落としたらしい、それで割れて、その母鳥がその味を占めて、その後全部自分で落として食べるみたい。だから何と言うか、直線的な考えでは、この世はなってないわけですね。あと何かありますか？

生まれた曜日が大切

【参加者】

先生、日本でどの日に生まれるかは関係ないですけれど、こっちは関係あります。

このミャンマーの曜日の。

【水源師】

曜日、はい、はい、はい。

【参加者】

日本にこういうのは無いのでしょうか？

【水源師】

日本はやっぱり無いという事は、南伝では直接インドに近いから、そういう情報を持っているけれども、それでも日本では、日、月、火、水、木、金、土とちゃんと暦あるでし

ょう？その意味を分からずに持って、これが非常に八つのブッダに帰依する為に非常に大切で、ただ水曜日だけ、マーキュリーの日だけは、朝か夕方二つに分けて、それで八つにしていますね。七つではなく八つ。でも曜日は七日。つまり八正道とか言う八という字が大切で、そうなっているのかもしれません。

それでそこにはゾウさんがいるけれども、東洋こっちにはゾウさんがいないでしょう？まあ動物的に表されて。まあそういう事で、私も分からなかったのですよ。どういう意味でミャンマーでね、その行けば何曜日に生まれたかと、その曜日がとても大切だと。そこにまずお供えして頭下げるわけですね。おおそうなのだと言って、知らなくて。

ジェラシーやプライドも無く一緒に座る事は最高の宝

【水源師】

何かありますか？

本当に皆さん、どんどん修業が成長されて、やっぱり千人、二千人の友を得るよりも、こういう中で和気あいあいと修業出来ると、一年に一回でも、こういう事は素晴らしい事なのですね。ほとんどはもう欺瞞の世で、その中で生きているから、こう言う中でたった一日でも心から瞑想を一緒に出来ると言う事は、やっぱりこの世で最高の宝だと思います。という事がだんだんだんだん分かってきますね。

ただそこに居て、凄い修業が出来ると言うのではなく、そこで心の優れた方達が、こうして募って、ここには一切のジェラシーも何もなく、ただただ修行をしているという清き心で、皆さんがここへ来てやっているという事で、ここでは皆さん誰もプライドも何も無く、ただただ心から、真心で座られて集っていると言う、日本でもちょっと無いし、世界でもなかなか難しいと思いますよ。お坊さん同士でももうジェラシー一杯だからね。あれ修業進んでいるとか何とかと言って、私はミャンマーのパオで、もう集中的に観られて、スターだったと言われてました。足上げると皆見ているし何しても皆見ているし、それで村人も私を見ただけで、「おー、君はなかなか修業進んでいるという人なのだね」とか言われて、もう噂がワーっと広がるわけなのですよ。

それでも私の振りをしている方もおって、あ、君なのか、あの方じゃないのですね、とか。そう、それは私ですという風な宣伝もしてしまう。ミヤンマーで、特別合宿とか、クラス開くから、パオセヤドーが開くからぜひ来ませんかと。いやー私はカナダの方が忙しいし、まあ遠慮して、私がそのままパオセヤドーと一緒にずーっと旅行しましたら、一緒におりなさいと言われましたら、そこにずーっとついて。そうしらたもうそこから出てこられないですね。

それで日本語でも言えないし、英語でやって、そこはそこの願いで功徳だけれども、私としては何か犬も歩けば棒に当たるみたいに世界をウロウロするのが、宿命かなと思って。それだから、ゼロから来てここまでこうなっているわけです。何か天界と皆さんの

お力によって、まあそういう事で。

私たちの実態を絵で現した、プラヌール、スリランカ

水源禅師法話集 93

（2018 年 5 月 12 日　大阪合宿 2 日目）

2019 年 2 月 22 日発行

編集兼発行　一乗禅の会